

西南学院小学校 学校長メッセージ

「学校通信 Wings 2022 年 6 月号」

あなたは私に、いのちの道を知らせてくださいます。あなたの御前には喜びが満ち、あなたの右には、楽しみがとこしえにあります。
(詩編 16 篇 11 節)

「もとの風景が戻ってきた！」

スポーツフェスティバル当日の朝、登校してきた子どもたちが、整備されたグラウンドを見て声を上げました。

3年ぶりに全校揃って行われたスポールフェスティバルは、コロナ禍前と同じようにとはまだいきませんでした。保護者の皆様にも来校していただき開催できたことを本当に嬉しく思っております。顔を輝かせて全力で競技や演技に取り組む姿、そしてその溢れるエネルギーに胸がいっぱいになりました。まさに「心一つに 全力で」を保護者の方も一緒に実感できたのではないかと考えています。子どもたちを見守り、応援して下さり、ありがとうございます。また、後援会役員の皆様・評議員の皆様方には、朝早くからスポーツフェスティバルのより良い運営のために力を貸していただき、本当にありがとうございました。

※ ※ ※

「教授は、発達の前を進むときにのみよい教授である、そのとき教授は、成熟中の段階にあり、<発達の最近接領域>にある一連の機能呼び起こし、活動させる。ここに、発達における教授の主要な役割がある。」(『思考と言語』: ヴィゴツキー著 柴田義松訳 新読書社 より)

ロシアの天才的心理学者と言われるヴィゴツキーが、発達と教授との関係に関して到達した結論であると言われていています。援助を受ける可能な領域を「発達の最近接領域」と名付け、教育はこの領域に働きかけることが重要なのであると考えています。つまり、子どもの発達の昨日にではなく、明日に目を向けることが大切だということなのです。

西南学院小学校が開校した年に、日本におけるヴィゴツキー研究の第一人者である柴田義松先生(東京大学名誉教授・日本教育方法学会代表理事)が授業を見に来てくださいました。

小学校一年生の国語の授業参観後、比較することで分かったり助詞の使い方大きく意味が変わったりすることに気づいた一年生の子どもたちを褒め、ものの見方・考え方を学ぶことの大切さを伝えてくださいました。このことは、子どもたちにとってとても大きな出会いとなり、学ぶ喜びや学ぶことの大切さを知るきっかけにもなったのではないかと考えています。また、先生は「あなたたちはこれから世の中に出ると、周りの人のために中心になって働いていく人になることでしょう。だから一生懸命勉強してくださいね。」という言葉も贈ってくださいました。(この言葉は、今の西南学院小の子どもたちにも当てはまることだと思います。)

授業後の研究討議の際、インタラクティブボードに瞬時に映し出される文字の問題点について触れ、板書されていく文字を子どもたちが目で追い思考しながら学びを進める時を持つことの重要性を教えてくださいましたことも、一人一台 iPad が配布され、子どもたちが使っている姿を見るたびに思い出しています。

教育の在り方が大きく変わると言われている今こそ、子どもの成長にとって本当に大切なこと、失くしてはならないものを再確認することも必要だと思えてなりません。

アップルのスティーブ・ジョブズ氏は、家庭で子どもが iPad を使うのを制限し、読書や会話の時間を大切にしていたと言います。学校もまた、たくさんの知識を得たい、新しい世界と出会いたい、今までできなかったことができるようになりたいという子どもたちの発達の明日に目を向け、確かで深いより良い学びの場となるよう環境を整えていきたいと思えます。